

実践報告

札幌市立前田中央小学校

(1) 研究内容

研究課題：「学校にアイヌ民族の方を招いて行う体験学習」

○ 研究課題を通して育てたい力①

直接見たり、聞いたり、やってみたりする体験的な学習を通して、自他の生命を尊び、人間としての尊厳を認め合える心を育てる。

○ 研究課題を通して育てたい力②

体験したり、札幌ウポポ保存会の皆さんと触れ合ったりする中で、自分なりの追究課題を見つける力を育む。

(2) 実践の内容

【実践①】「アイヌの人たちの生活と文化」について

○ねらい

- ・ アイヌ文化に直接触れる体験的な活動を通して、アイヌの人たちの生活や文化に対する関心を高める。
- ・ アイヌの人たちの衣食住や遊びについて自分なりに調べたいことを見つける。

○学習内容

- ・ ムックリの演奏や歌の鑑賞と踊りの体験活動
- ・ 伝統的な衣装の試着
- ・ アイヌ民族の方との小グループによる意見交流
- ・ アイヌ民具を用いての体験活動

(3) 研究のまとめ

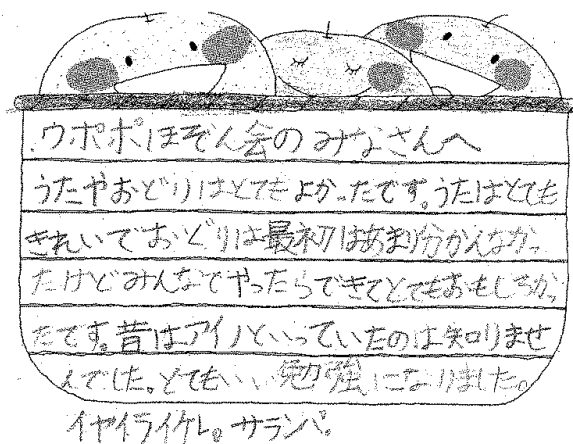
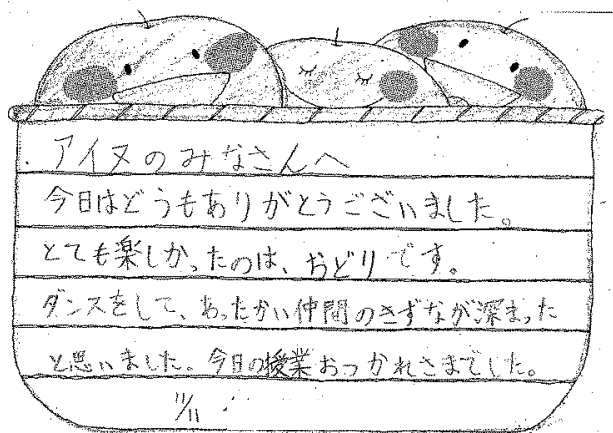
①成果

札幌ウポポ保存会の皆さんをお招きしての体験的な活動では、ムックリの演奏では驚き、衣装を着せていただいて一緒に踊る場面では目を輝かせて楽しんでいました。事前に学習していた知識と直接見て、聞いて、感じたアイヌ文化との違いに対して様々な感想をも



ち、自分なりの追究課題を明確にしていくことができた。

また、後半の小グループでの交流では、一人一人の疑問に丁寧に詳しく答えていただき、一人一人の心の中に次から次へといろいろな思いが湧いているのを感じた。



②課題

後半に札幌ウポポ保存会の皆さんと直接的な対話ができるよう小グループ交流を設定した。子どもたちの興味・関心が高まり、次から次へと質問を繰り返していく様子から、とても有効な活動であると感じた。一方で、交流時間が不足したり、アイヌ民具が不足したりなど課題が見られた。事前に担当の方と打ち合わせを行い、テーマ別のグループ（ムックリグループ、アツシグループなど）にし、グループごとに必要な道具を必要な分用意しておくことにより学習効果が上がると考える。



③提言「人権教育のすすめ」

アイヌ民族の方とふれあう活動は、人権教育のスタートとしてはとても効果的である。子どもたちの概念にはあまりなかったアイヌの「共生」の自然観、ウレシパ（育てあう）という言葉の意味を学べたことに大きな価値を感じている。見て、聞いて、触れて素直に感じたことを相手に伝える。そして、相手の話を自分なりに受け止める。そんなところから人権教育をスタートするとよい。